

† 父である神さまは、ひとり子であるイエス様をこの世界に遣わして下さいました。ご自分が創られたすべての愛するいのちのために。

季節の変わり目、いかがお過ごしでしょうか。カトリック水巻教会の谷口神父です。この度、水巻聖母幼稚園のご理解のもと、ホームページ上にコラムを載せていただけることになりました。コロナウイルスが猛威を振るい、今日に至るまで世界中の人々が大きな痛みや困難を抱えるなか、神父としてできることを模索していたところでしたので、このような機会をいただいたことに心から感謝し、ご覧下さる皆さまに少しでも神さまの思いを伝えていくことができたらと思います。このコラムをご覧になることで、子どもたちに神さまのことを話した内容がご家庭で話題の一つとなったら嬉しいです。※当コラムは子どもたちに神さまのことを話した後に更新いたします。

第一回目となる今回のテーマは「実りをつけて渡しましょう」です。

去る10月13日、20日、27日に芋ほりを終えた子どもたちに次のようなことを話しました。「今の季節は秋。実りの秋、食欲の秋などと言われるように、たくさんのおいしい果物や魚を見かけることができるし、どんぐりや食べられないものもたくさんある。じゃあ、秋はどうしてたくさんおいしいものがあるの？…それは冬を乗り越えるためだけど、実りを次に渡すために栄養をたくわえているからなんだよ。だから、みんなも栄養をたくわえないといけないんだ。そうしたら冬（苦しい時）を乗り越えて春を迎えた時にまた一回り大きくなることができるし、その栄養で、もっと周りの人を支えることができるようになるんだよ」と。

わたしたちは秋をどのように受け止めているでしょう。周囲に広がる自然界（聖書での表現を使えば、神さまからつくられたので「被造界」といいます）ではこの季節になると多くの実りをつけます。葉を散らす木々であっても、その本体に栄養を蓄えるためにそうします。ある意味において実りです。同じ被造界に生きるわたしたちもこの季節に“実り”をつけなければならないことを教えられているようです。世界を創られた神さまは、訪れる冬（コロナ禍もその一つと言えます）を乗り越えるための実りをつけることができるよう、また乗り越えた先に振る舞うことができるようにわたしたちを創られました。この季節、皆さんはどんな実りをつけていますか？その実りをこれから誰に、どのように渡していくのでしょうか？